

私たちの浦白には誇らしい特産品や風景が数多くあります。それらをつくるのは一人ひとりの仕事や取組みです。この連載では浦白の誇りをかたちにしている様々な人の思いを紹介します。

北海道ワインの源流 浦白ワイン
鶴沼ワイナリーのぶどうで作ったワインは国内外の数々のコンクールで評価され、ワイナリーとして内閣総理大臣賞も受賞しています。洞爺湖サミットでは各国首脳に振る舞われ、天皇陛下にも飲んでいただいた。わが町が世界に誇るワインです。ワインの味はぶどうの味が決まります。東からの陽光が降り注ぐ鶴沼の丘の上で育ったぶどうで作ったからこそ、このワインが生まれます。町民の皆さんに愛していただいています。浦白の特産品と誇りをかたちにしています。

浦白に育てられた
世界に誇るワイン



今村 直史 さん

受け継いだ仕事

父がワイナリーの立ち上げのため浦白に来て、私はこの町で生まれ育ちました。子どもの頃の父を思い出すと、多忙でとにかく大変そうでした。私はすぐ今の仕事に就いたわけではなくて、映像をつくる仕事をしたい。20代は東京で働いていました。社会人になってから帰省するたびに父の仕事の話を聞いています。かっこいい仕事をしているんだと思うようになり、ぶどうをつくる工程への好奇心が少しずつ強くなっていったんです。30歳で結婚したのを機に浦白に戻り、ワイナリーに就職させてもらいました。今は副農場長としてぶどう農場全体を管理しています。

町の人に応援され、
ワインが育てられた

町の皆さんが飲んでくださったり、大切な人への贈り物に選んでくださった。このワインは浦白町の皆さんに育てられてきました。



ナナメに“いなす”
試行錯誤の連続

ワインブランド「鶴沼収穫」を醸造する北海道ワイン株式会社が設立し、今年で50年になります。北海道にワイン文化を作るべく始まった会社で、1974年に浦白でぶどう畑の造成がはじまりました。当初は寒い北海道で失敗の連続だったそうです。例えば豪雪でぶどうの木が倒れたりすること。試行錯誤して、木を斜めに植えて雪の重みをいなす、耐えやすいようにする方式が定着しました。一つ一つ新しいチャレンジが続く、50年の歴史が積み重なっています。

歴史の一部を担う責任

浦白のワインは何もない中から人が始めて、地域の皆さんに育てていただいた北海道ワインの源流です。私がこの仕事を始めて16年になりましたが、これからの歴史の一部に関わっていることをとても誇らしく思っています。

地球温暖化の影響は北海道にもあり、毎年これまで通りにはいかないことが生じています。それでも受け継いで次の世代にバトンを渡していくために、自分の任された区間の仕事をしっかりと任されたという思いでぶどうに向き合っています。このワインは私の誇りですが、私だけのものでもありません。浦白の誇りでもあり、北海道の誇りでもあります。自分の手で皆の誇りを守りたい。この町民の皆さんに、浦白が育てたこのワインを楽しんでいただきたいと思っています。

今村 直史 (いまむら なおふみ) さん ● 1978年生まれ。高校卒業後に渡米し1年弱海外で過ごす。その後東京の映像制作会社に8年勤務し、浦白へ帰郷。鶴沼ワイナリーに就職し、現在は副農場長。趣味はキャンプ。永久に家族みんなで行きたいがいつまで娘たちが付き合ってくれるか若干心配している二児の父。

えみる Vol.5

多目的室2は多くの利用方法で活用されています。

●浦臼町老人クラブ連合会主催で「高齢者のつどい」が開催されました。



浦臼町福祉課職員に「介護と高齢者の健康について」と題し、簡単な体操や頭の運動を取り入れながら楽しくご講演いただきました。講演の後にはカラオケ大会が開催され参加者総勢37名で大変盛り上がりしました。

●日本ハムファイターズCS観戦会



日本ハムファイターズ浦臼後援会が、CS観戦会を行いました。

参加された方からは「仲間で集まって観ることができ大変有意義だった」と感想をいただきました。

お問い合わせ 多世代交流施設「えみる」 電話：74-5151

9/18 100歳高齢者「内閣総理大臣祝状」の贈呈

9月の「老人の日・老人週間」に、今年度満100歳を迎えられる大森初子さんに内閣総理大臣より祝状と記念品の銀杯が贈られ、町長より伝達されました。

本当におめでとうございます、これからもお元気でお過ごしください。



10/21 子どものために美味しいお米を提供 学校給食用に新米を寄贈

J Aピンネブランド米生産組合からゆめぴりかとふっくりんこ各120kg、浦臼クリーン米生産組合から特別栽培米のふっくりんこ120kgが教育委員会へ寄贈されました。地元のお米を小中学生に食べてもらおうと毎年寄贈されており、後日、学校給食にて提供される予定です。

